

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 永犬丸 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

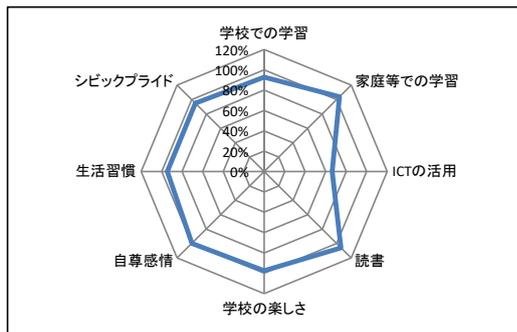
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「思考・判断・表現」の問題の正答率が全国平均を上回った。特に「書くこと」の正答率は全国平均を大幅に上回った。言葉の特徴や使い方に関する事項の問題が全国平均より下回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える問題	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「知識」「思考・判断・表現」の問題の正答率がともに全国平均を上回った。特に「図形」の正答率は全国平均を大幅に上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	
	努力が必要な問題	素数の意味を理解しているかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「知識」「思考・判断・表現」の問題や学習指導要領の領域の問題の正答率がともに全国平均を下回った。記述式の問題の正答率は全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	塩素の元素記号を問うことで元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答している。	
・「授業の中でICT機器をどの程度使用したか」「ICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる」に対する回答が全国平均を下回っている。今後は、授業の資料の提示や問題の解答などだけでなく、ICT機器を使用して情報を整理する授業を行う必要がある。	
・家庭等での学習は全国平均を上回っていたが、「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」に対する回答が全国平均を下回っていたため、実生活に近い課題の設定や教科の横断的な学習などに取り組む必要がある。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・問題解決の見通しをもって活動できるように、授業の最初に「めあて」を提示した。
- ・考えをまとめる能力を育むため、各教科「振り返り」の充実に努めた。
- ・より深く学ぶため、グループやペアで協同して課題を発見するとともに、課題解決の手立てを考察し、実施した。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・毎朝「心の健康観察」を取り、生活と心の変化を確認し、家庭への連絡や訪問、懇談会を通した生活情報の共有をした。
- ・保健や道徳の授業で「健康な生活」や「自分を大切にすること」について考えた。
- ・各学年で統一した宿題を行い、家庭での学習の習慣化を図ったが、永犬丸中学校区で一貫した取組が可能か検討が必要である。
- ・達成感が学習意欲等にも繋がるため、家庭と学校の双方から励ましの声かけを行う。